





ポイント2 つなぐ（職業理解を図るための実践例）

小・中学校の教員が、社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育むためには、学習のねらい、方法、内容を理解し、9年間を見通して指導計画を作成することが重要です。

「小学校キャリア教育の手引<改訂版>」、「中学校キャリア教育の手引」を参照

小 低 学 年	<p>ねらい 働くことのよさを感じ、みんなのために働こうとする。</p> <p>内容【道徳】働く楽しさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や家での仕事について発表する。 資料「森のゆうびん屋さん」（「わたしたちの道徳」）を読んで話し合う。 みんなの役に立ててよかったと思ったことを発表する。 頑張っている自分たちへのメッセージを聞く。 	
小 中 学 年	<p>ねらい 働くことの意義を理解し、学級に貢献していることを実感する。</p> <p>内容【特別活動】進んで働こう</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果による問題（しっかり掃除をしていないなど）を共有する。 解決策を検討する。 自分の取り組むことを自分で決める。（短冊などに書き、発表する） 	
小 高 学 年	<p>ねらい 将来のことを考える楽しさを認識し、自ら進んで探究活動に取り組む。</p> <p>内容【総合的な学習の時間】人生の先輩から学ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャー（以下GT）として地域の「ものづくり名人」を学校に招く。 GTに仕事のやり甲斐について話を聞く。 GTにものづくりのコツなどについて質問する。 児童がGTから学んだことや将来の職業について考えたことを発表する。 	
中 学 校	<p>ねらい 将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。将来の進路計画に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。</p> <p>内容【総合的な学習の時間等】職場体験</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校での職業講話、職場見学の経験を踏まえ、第1学年から進路意識の向上や自己の適性の理解等を指導する。 事前に、体験先を選定するとともに、安全に関すること、社会性やルールに関することについて指導する。 自己課題を明らかにし職場体験を実施する。 事後に報告書や礼状を作成し、進路選択について意識を高める。 	

「地域の企業と連携した効果的な職場体験」を実施するために

- 校内に「職場体験推進委員会」を設置し、地域の事業所との連携を組織的にを行います。
- 職場体験のねらいや日程、体験内容など職場体験の様子を積極的に地域に情報発信します。



教育支援活動を実施していない企業の4割は、その理由を「学校側からの支援依頼がない」と回答しています。

ポイント3 交流する（小・中学校教職員の合同研修）

小中連携を進めていくための合同研修を通して教職員の交流を進めることが重要です。

- 互いの授業を参観し、児童生徒の実態を十分に把握します。
- 9年間の連続性を図った指導内容及び指導方法について学び合います。
- 互いの学校課題の解決に向けた協力体制の構築につながる話し合いをします。

